

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立両尾小学校

当校は、明治35年に両尾尋常小学校として創立。昭和48年には大川分校を統合。平成24年に創立110周年を迎えました。

昨年10月の文化祭の際には、例年の作品展や学習発表、バザーに加え、記念のセレモニーを行いました。100周年以降の歴代の校長先生やPTA会長、後援会役員等をお招きして、子どもたちと保護者、地域の皆さまと創立110周年をお祝いしました。



創立110周年記念の
バルーンリリース

当日は、バルーンリリースも行い、未来に向けて夢や願いなどを書いたメッセージを結んだ風船を大空に放ちました。

今年度4月に1年生7人を迎え、全校児童35人で、111年目の新たな歩みを一歩一歩着実に進めていくところです。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898

広がっており、豊かな自然の中に建っています。校舎の壁面には、創立100周年の時に、地区出身の彫刻家である親松英治さんから寄贈された鬼太鼓の巨大なレリーフが設置されています。

地域の伝統芸能であるこの鬼太鼓を学び、受け継ぐために、「子ども鬼太鼓」の活動に取り組んでいます。運動会が近くなると、業間の「おんどこタイム」



運動会での「子ども鬼太鼓」

などの時間に、連日練習を行います。高学年が低学年の子どもたちに、太鼓の打ち方や手足の動きなどを教えながら、一生懸命に練習します。その結果、毎年の運動会では、素晴らしい演技が披露されています。

この「子ども鬼太鼓」は8月の両津七夕川開きでも発表し、地域の伝統文化を多くの方々に見ていただく貴重な機会となっています。

これからも家庭や地域の皆さまの協力を得ながら教育活動を進め、地域の文化や自然に親しみ、大切に育てていきます。



佐渡ジオパーク

いわやどうくつ 岩屋洞窟(2) — 四国遍路へのあこがれ —

岩屋洞窟の前庭には、観音様をはじめ数多くの石仏が並んでいます。これは四国八十八ヶ所の仏たちです。四国遍路は現在も日本人にとって人気の高い旅行ですが、江戸時代から庶民が一生に一度は実現したい旅のひとつでした。

しかし、佐渡では農業生産の労働力を確保するため、島から外へ出る人数を制限していましたので、旅に出るのも奉行所の許可が必要でした。また、徒歩での四国への旅は2か月から3か月の期間とそれなりの旅行費用がかかり、すべての人が果たせた夢ではありませんでした。

そこで、代わりとなるお寺やお堂を佐渡島内に88か所設定し、それを巡ることで四国遍路の旅に置き換えていました。この伝統が現在の「佐渡八十八ヶ所」(佐渡遍路)に受け継がれています。ただ、島内の巡礼にも7日前後の日数が必要ですので、1か所に88体の仏様をまとめた、いわば最短の代替え四国遍路の姿を岩屋洞窟で見ることが出来ます。

これらの石仏は、約2百年前に活躍した椿尾の石工 五兵衛が彫ったものです。石仏や石臼の材料となる

ジオパーク、推進日記 35

石英質安山岩(デイサイト)の産地として知られている椿尾では、江戸時代の中ごろから石仏や石塔が盛んに作られました。それらは佐渡全島に広がり、島外にも移出されています。

椿尾の石切場は、今年ジオサイトとしての整備が進みました。大地の恵みが地域の産業に結びついているジオパークのテーマを、椿尾で見ることが出来ます。岩屋洞窟の四国八十八ヶ所石仏は、椿尾と宿根木のジオサイトを結びつける上でも、貴重な文化遺産です。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23-2101



四国八十八ヶ所の石仏